

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071501086		
法人名	社会福祉法人 天光会		
事業所名	天光園 グループホーム		
所在地	〒837-0003 福岡県大牟田市大字宮崎1710番地3 Tel.0944-58-3035		
自己評価作成日	平成29年01月28日	評価結果確定日	平成29年03月03日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel.093-582-0294		
訪問調査日	平成29年02月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大牟田市北部に位置する当ホームは閑静な住宅地に隣接しており、入居者の方々にも周辺住民の方との交流(サロン開催、避難訓練、避難所開放)や、自然にも恵まれた環境で穏やかな日々を送って頂けるのではないかと思います。同敷地内にも特別養護老人ホーム、デイサービスの併設。隣地域には地域密着型特養2ヶ所、他9事業所展開しており、当ホームは1ユニットですがバックアップとしての協力体制も整っています。何より入居されているご本人、御家族様にとって毎日の生活が安心して穏やかである事、そして健康面や認知症状緩和の専門医の協力を得ながら全職員が寄り添い、笑い声の聞こえる心ある温かいケアでお手伝い出来る様日々研鑽しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然が残る住宅街の広い敷地の中にある複合型福祉施設の一部に、平屋建て1ユニット(定員9名)の「天光園 グループホーム」がある。地域のサークル活動「さつき会」を発足し、地域と利用者が交流を図り、認知症やグループホームの啓発活動に取り組んでいる。管理者と職員は利用者の個性や生活習慣に配慮し、「グループホームでしかできない介護」に取り組み、利用者が、明るい笑顔を取り戻した様子を見守る家族からは、「天光園を選んでよかった」とホームと深い信頼関係が築かれている。食事は利用者の楽しみなひと時であり、料理上手な職員が愛情込めて作る手料理を、利用者職員が、同じテーブルで談笑しながら食べる様子は、微笑ましく、食欲増進に繋げている。開設16年目を迎え、地域密着型事業所として地域から頼られるグループホームを目指し、日々努力している「天光園 グループホーム」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は唱和し、意識的な実践を心掛けている。	ホームが目指す独自の介護理念を見やすい場所に掲示し、職員間で唱和し、会議の中で理念の意義や目的を理解し、利用者一人ひとりの個性や生活習慣に配慮した介護サービスの提供に取り組んでいる。また、職員は常に理念を振り返り、理念に基づいた介護が出来ているかを確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣団地とのサロン「さつき会」で毎月地域との交流を行っている。	利用者と職員は、地域の一員として祭りや行事、活動に参加し、特養と合同の行事やホーム独自のイベントに、地域の方や家族、ボランティアが参加し、親しくなった地域の方から差し入れを頂く等、交流の輪が広がっている。中でも保育園児との触れ合いは、利用者が楽しみにしている時間である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	さつき会及び地域住民と介護予防職員による認知症の講話を受講。近隣で認知症の方の独居により相談や見守りを行い介護サービスへも繋ぐ事も出来た。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で評価結果の報告を行った。構成員による情報を参考にし見聞を広め、市や校区での動向も参考にしながら支援に努めている。	会議は、2ヶ月毎に年6回開催し、ホームの運営や取り組み、課題等を報告し、参加委員からは、質問や要望、地域情報、行政からの報告などが活発に提案され話し合われ、ホーム運営や業務改善に反映されている。参加委員にとっても知識や情報を得る機会と捉え、充実した会議である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議担当職員や担当窓口の方、排泄ケアのコンチネンスコーディネーターにも来訪して頂き指導を受けている。	管理者は、行政に利用状況や介護の疑問点、困難事例、事故等の相談を行い、助言や情報を提供して貰い連携を図っている。運営推進会議に、行政や地域包括支援センター職員が出席し、ホームの現状や取り組みを理解してもらっている。また、徘徊模擬訓練に参加し、グループホームの啓発にも取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを各職員に配布し、内部研修やケアの中でも気づきがある時には検討できる環境へと務めている。	職員会議や内部研修会の中で、身体拘束や虐待防止について職員一人ひとりが理解したうえで、拘束が利用者にも与える不安や影響について職員間で話し合い、禁止行為の具体的な事例を挙げて検証し、「身体拘束をしない・させない」介護の実践を目指している。また、玄関は利用者が自由に出入り出来るように開放している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修と互いの気づきで意識を持ちケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センター、社会福祉協議会担当職員の講話で家族と共に学ぶ機会を計画(2/20予定)	現在、権利擁護の制度活用者はいないが、外部講師を招聘し、家族と一緒に制度の内容や申請方法を学ぶ機会を設け、資料やパンフレットを揃え、利用者や家族から、相談があればいつでも支援出来る体制を整え、利用者の権利や財産が、不利益を被らない取り組みを行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行っている。退居時の内容は丁寧に行っている。数年経過されている家族へは改めて説明を行った経緯もある。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や電話にて生活状況をお伝えしながらご希望の意見や思いを察するように努め、毎月外泊の御家族も長期間継続している。	職員は、日常の暮らしの中から利用者の思いを汲み取り、家族面会や行事参加の時に、職員が家族と話し合う機会を設け、利用者の希望や健康状態、生活情報を報告し、家族から、意見や要望、心配な事等を聴き取り、ホームの運営や、利用者の介護計画に反映出来るように取り組んでいる。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GH職員状況の報告や意向、又、法人全事業所における在宅及び管理者主任者会議でも意見や提案を行い解決案や結果がGH職員へ反映出来る様な働きやすい環境へと務めている。	職員会議や毎日の申し送り時に、職員の意見や要望、アイデア等を話し合い、出来る事から速やかに実践に向けて取り組み、ホーム運営や業務改善に活かせるように努力している。また、職員一人ひとりが個人目標を毎年設定し、意識の高揚を図り、職員の意欲に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課の取り組みで個人目標を設定している。職域として狭い環境での勤務や精神面の重圧も高い為、職員間の関係性を良質なものと務めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	其々の能力や個性を発揮し活躍してもらっている。職員の趣味も継続出来るよう勤務体制も考慮している。	管理者は、職員の特長や能力を把握し、人員配置や勤務体制を整え、職員が生き生きと働きやすい職場環境を目指している。休憩室や休憩時間、希望休に配慮し、働きやすく、職員間のチームワークの取れた就労環境に取り組んでいる。外部の研修に職員を交代で派遣したり、資格取得のためのバックアップ体制も整えている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	新人研修、中堅者研修などを通し学ぶように努め日々職員への啓発に勤めている。	利用者の人権を守る介護について、職員間で話し合い、利用者を人生の大先輩として敬愛し、言葉遣いや対応に注意し、利用者がホームの中で、自由であるがままの暮らしの支援が出来るように取り組んでいる。また、人権研修を実施し、人権教育、啓発活動にも取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員、中堅職員、管理者、法人内研修受講。就業しながらの初任者研修資格終業した職員もいる。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市開催、あんしん介護相談意見交換会に出席しGH事業所のサービスの情報交換やネットワークも出来ている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族から聞き取りの中でも本人の思いや、会話の中でも傾聴し、安心と思って頂けるような関係性に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅で家族による介護で疲労されておられる家族へは労いと共感を持ち、入居にあたってどのような希望を持っておられるかお話を聞きながら、ご家族の気持ちに添うように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と御家族の言葉を大切に入居に繋げている。体調に応じたマッサージの訪問サービスも内容説明を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事等で力を発揮して頂き、助けて頂いている部分も多い。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	キーパンソンを始め、別居されている家族、孫、親戚等面会には関係性の配慮を行っている。毎月の外泊や行事での外泊も希望に添っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	多くの家族の面会があり、元同僚の訪問、近所のお友達や電話取次ぎも行い援助へと務めている。	家族や親戚、友人、知人の面会を歓迎し、知人や友人の面会時には、ゆっくり話ができる場所やお茶を提供し、いつでも面会出来るように支援している。家族の協力を得て、外泊や一時帰宅をして近所の方と歓談する等、利用者が長年築いてきた人間関係や地域社会との関わりが、継続出来るように取り組んでいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃より、職員は共同生活で仲良く楽しく生活されることをお伝えしている。入居者リーダーの方が和ませて頂く力も持っておられ、和んだ環境にあると思う。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後にも郵便物の連絡や入院から退院のフォロー、訃報により葬儀参列、ご遺族としての関係性も大切にしている。GHへの来訪もよくして頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本、個々の希望や思いに添うケアへと務めているが、困難と思われる時は職員間の意見や御家族への相談でご本人の思いが解決するようにと支援を行っている。	アセスメントを活用したり、日々の暮らしの中から、利用者の思いや意向を聴き取り、介護の実践に反映させている。意志を伝えることが困難になってきた利用者には、家族と職員が話し合い、関係者で意見交換し、利用者の表情や仕草を観察しながら、利用者の思いを汲み取る努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人からこれまでの生活延長で「やりたいこと、できる事」を伝えられる為、充実出来るよう支援している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	認知症状進行の方、生活レベル低下、不眠の方等個別援助にと務めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	在宅生活習慣、前施設での生活、訪問歯科職員家族からの情報を聞き取り、担当職員が中心に計画。変化の気づきが低い時は他職員の意見も伝え意見交換で作成。	担当職員やケアマネージャーは、利用者や家族とコミュニケーションを取りながら、意見や要望を聴き取り、モニタリングやカンファレンス、申し送り時に職員間で話し合い、利用者本位の介護計画を定期的に作成している。また、利用者の状態変化に合わせて、家族や主治医と話し合い、介護計画の見直しをその都度行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個人記録に記載。評価の際や担当者会議で気づき変化を活かすよう努めている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	変化時の柔軟性の対応にと努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、地域住民の支え、訪問事業者との関係性でも安心な生活が保たれるようにとに努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各自かかりつけ医への受診は継続して頂き、受診時は同席により生活状況も医師、看護師に報告を行っている。薬剤師への相談も行っている。	利用開始時に、利用者や家族の希望を優先し、かかりつけ医の受診を家族対応でお願いしているが、職員が同行することもあり、結果を家族に報告している。また、主治医や看護師と介護職員が常に連携し、利用者の情報を共有し、利用者の健康管理は充実している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医師、看護師へ緊急時にも連絡出来るよう関係性を深めるよう努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行い、入院期間及び病状により退居リスクが高くなる旨、医療機関にも伝えたり詳細が相談出来る関係である。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約書説明の折り、重度化や看取りの行為が出来ない旨お伝えしている。	契約時にターミナルケアについて、利用者や家族に、ホームで出来る介護と、病院でしか出来ない医療行為について説明し承諾を得ている。利用者の重度化に合わせて家族や主治医と話し合い今後の方針を確認し、利用者の終末期が安心して任せられる、環境整備に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生予測に新人職員や在職職員への指導は行っている。近年普通緊急救命受講者1名いる。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年1月の市水断水経験と地震の体験を反省に法人、職員間での話し合いを行った。夜勤帯1名での対応の為、予測事故の手順及びGH内での避難訓練を行った。地域との緊急通報連絡網も整備している。近々法人全体、地域との訓練予定。	消防署の協力や、地域住民の参加で避難訓練を年2回実施し、通報装置や消火器の使い方を確認し、夜勤者1名で9人の利用者を安全な避難場所に避難誘導出来るように取り組んでいる。また、非常災害時に地域の方に駆けつけてもらえる協力体制も整え、非常食は、法人一括で保管している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員で理念を念頭に心掛けケアを行っている。	理念に「どんな時にも、誇りや尊厳のある暮らし」と謳い、職員は、常に利用者のプライバシーを尊重した言葉遣いや対応に注意し、利用者のプライドや羞恥心が損なわれない介護を目指している。また、利用者の個人情報や職員の守秘義務についても、管理者が職員に説明し、情報漏洩防止に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の習慣や性格を掴みながら個性を表出出来る様に配慮している。少しでも家族に近い関係であるように努め、意思決定の尊重に心掛けている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気持ちにも臨機応変にと務めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室へ御家族が定期に行かれている方もおられる。衣類は季節、気温、外出とTPOに応じて自分で選ばれたり声掛けを行ったりで支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立にも旬の食品や行事食、誕生食と工夫をしている。個人の嗜好も把握しながら楽しみのある時間を職員と共有している。準備、片付けは自発的に出来る方から手伝って頂いている。	利用者の嗜好を聴きながら献立し、職員が交代で調理を行い、利用者の体調や能力に合わせて調理や片付けを手伝ってもらい、同じテーブルに利用者と職員が座り、談笑しながらの楽しい食事の様子が楽しそうである。また、おやつ作りにも利用者と職員で挑戦し、作って食べる楽しさを味わっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康チェックへの記載を行っている。特に水分量の把握にも配慮している。その方の嚥下状態などに応じてミキサー食、トロミアップ使用等で栄養面でも職員間での申し送りしながら支援を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	健康面でも影響ある為こまめなケアに心掛けている。在宅よりご利用の歯科往診も毎週訪問、義歯の不具合などで協力歯科医も訪問して頂いている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のタイミングや声掛けの工夫を心掛けている。排泄障害の方の相談を市窓口、コンチネンスコординーターの指導と調整をして頂いたり、オムツ使用軽減の為の指導も受けている。	トイレでの排泄や、オムツを使用しないで済む暮らしは、利用者の生きる力に繋がると捉え、職員は、利用者の排泄パターンを把握し、表情や仕草を観察しながら、タイミング良く声掛けや誘導を行い、失敗の少ない排泄の支援に取り組んでいる。夜間は利用者の希望を聞きながら、トイレ誘導や、ポータブルトイレ、オムツ使用等を使い分け、利用者の負担軽減に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	整腸に良いと思われる製品を取り入れたり、便秘解消に心掛けている。排泄のリズムを職員間で把握し支援を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日の入浴を行っている。午後よりの入浴であるが、本人が納得されたの援助に努めている。	入浴は利用者の希望や体調に配慮し、週2～3回入浴支援を行い、体調や皮膚チェックを行い、利用者の健康管理に努めている。入浴を拒む利用者には、時間をずらしたり職員が交代してタイミングを見ながら声掛けし、清拭や足浴に変更することもあり、無理強いのない入浴支援に取り組んでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の平穏な生活を引き続き夜間安眠へと繋がる対応に努めている。不穏状況により変化がある方の報告を夜勤者へ申し送っている。室温や照明に配慮し安眠への援助に努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師からの説明を受けている。通常薬の変更時は経過観察を行い、副作用や効果がある時は医師や薬剤師にも伝達を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	定着している脳トレ、ぬり絵等が出来た時の達成感を持って頂き、日常生活の意欲が出る支援にと努めている。又家事が出来る方、裁縫が得意な方々も力を出して頂いている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	入居間もない方の帰宅願望では昼夜において希望に添って支援を行った。家族の支援での外出や毎月の外泊の支援、先日も衣類を購入される方の買い物支援も行っている。	気候の良い日は、広い敷地に出て、散歩や太陽の日差しを浴びて、利用者の気分転換に繋げている。スーパーや道の駅への買い物や、花見やドライブに出かける等、利用者の生きがいに繋がる外出の支援に取り組んでいる。また、家族の協力で、買い物や外出にでかけ、利用者と一緒に楽しい時間を過ごしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各自預り金として管理している。行事での外出時には家族へのお土産を購入されたり、パンの訪問販売には支払い可能な方はお任せする。職員へ委ねられる人の方が多い。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居当初より県外の家族から毎日固定電話へ掛けて来られ継続中。他、元同僚より電話で安否確認と手作りお手玉、写真等の差し入れ時にはお礼の電話を掛けて頂くような支援を行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	殆どの方がリビングで過ごされている。南向きで明るい室内の採光調整を行い居心地の良い質へと努力している。トイレや洗面所の表示を行い場所の確認をして頂いている。対面式キッチンで調理の様子が分ったり会話が出来た環境である為安心して頂いているかと思う。	家庭的な雰囲気のある建物は、音響や照明、温度や湿度、換気にも注意し、利用者がリビングルームで、仲の良い利用者同士で会話する様子は微笑ましいものがある。対面式のキッチンから料理の美味しい匂いに誘われて、利用者がリビングルームに集まり、楽しい食事が始まっている温かい雰囲気の共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで過ごされる時間が多い。良い形でメーカーが居られる為、和んだ空気があるかと思う。中には、自室で休まれリビングとの往来で、自分の生活リズムをとっている方もおられる。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	最近では簡単に搬入できる家具を持って来られる家族も多くなって拘りは薄らいでいる様子。ご自分の部屋と認識がある方は休息をとったり、リクライニングチェアでテレビを観たりで経過される方も居られる。	利用者の馴染みの家具や寝具、電気製品、生活必需品を家族の協力で持ち込みレイアウトし、自宅と生活環境が急変しないように工夫し、利用者が自宅と違和感のない雰囲気の中で、安心して穏やかな暮らしが出来るように、全室南向きの明るくて居心地の良い居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有場所には表示をしており、独歩可能な方には声掛けで移動して頂いて、自分の力を出せるような支援に努めている。		